

<申込み時の注意事項>

- ・分科会はひとつしか選択できません。
- ・ゆたかなまナビからお申込みください。
- ・研修会開始後(終了後)はいかなる理由であってもゆたかなまナビへの追加登録はできません。必ず締め切り前に申し込みをお願いします。(申込期間:12月4日(水)~2025年1月17日(金)23:59)
- ・オンライン開催のURLは開催2日前までにお送りいたします。
- ・対面開催であってもレポート提出が必要です。期限内(1週間以内)に必ず提出をしてください。

※レポート提出のメールが届かないことがあります。ゆたかなまナビのマイページ(研修履歴)や設置者管理画面からも回答ができます。回答方法がわからない時は必ず期限内に協会事務局(045-534-8708)までご連絡ください。(締切後のレポートは一切受け付けられません)

分科会 時程

13:30	受付開始
14:00	開会 研究発表・講師助言・質疑応答など
16:00	閉会



第1分科会 特別研究委員会1

開催方法:ハイブリッド
(対面(かながわようちえん会館):100名 オンライン(Zoom):200名)

講師 宮里 暁美 先生(お茶の水女子大学アカデミック・プロダクション 特任教授)

テーマ 環境を見直してみよう!変えてみよう!~見て・聞いて・語り合う中で生まれてくること~

俯瞰図番号:E4

今年度の特研1では、保育と切っても切れない関係にある「環境」に着目し、その魅力と可能性を考えています。年間2回、実際に園見学をすることで参加者が同じ環境を「見て」、園の方や同じグループの話を「聞いて」、それを自分の保育に何らかの形で取り入れてみました。そしてその後の子どもたちの様子を「語り合う」ことにより、どんなことが生まれ、変化してきたかを発表していきたいと思えます。

環境を工夫することで、子どもたちにとっても、保育者にとっても保育がより楽しくなるように、当日ご参加の方にも少し参加していただきながら進めていきたいと考えています。(Microsoft Formsの機能を使って、感想やキーワードを集めさせていただく予定です。)

持ち物:インターネット(Wi-Fiは会場で繋がります)につながるスマートフォンやタブレット

第2分科会 特別研究委員会2

開催方法:対面(技能文化会館2F多目的ホール)240名

講師 三谷 大紀 先生(関東学院大学教育学部こども発達学科 准教授)

テーマ 子どもとの対話を対話しよう~子どもの主体性を尊重した保育の充実を目指して~

俯瞰図番号:B2

「子どもとの対話」とは、目の前の子どもが何に興味・関心を持ち、どんな楽しみや問いを感じているのかを共に考え、子どもの探求を支え・応えることを意味します。

特別研究委員会2では、参加者同士が写真を持ち寄り対話し、多様な見方や関わりを考えてきました。発表当日は、「環境構成を何か工夫したい!」、「保育をより面白くしたい!」、「でも、実際にやるとなると、何から手を付けたらよいか悩んでしまう」等々、どんな人でも大歓迎です。誰にでもチャレンジしたり、工夫したり、他の参加者に貢献したり、できることが必ずあります。子どもや保育について語り合い、保育をより楽しく、面白くするヒントを掴んでいくなかで、結果としてそれぞれの参加者や園が、「子どもの主体性を尊重した保育」をより充実させていく糸口になればと願っています。発表は、事例を用いたミニシンポジウムと、特別研究2のメンバーによるポスターセッションを行います。

持ち物:筆記用具・メモ帳

2024年度横浜市幼稚園教育研究大会分科会

第3分科会 特別研究委員会3

開催方法：対面（港南公会堂）300名

講師

吉川 和幸 先生（国立特別支援教育総合研究所研究企画部総括研究員）

テーマ

インクルーシブな視点から保育を見直してみませんか？

～多様な子どもたちが自己発揮できる保育について考えよう、語り合おう、見つけよう～

俯瞰図番号：D3

特別研究委員会3では、昨年度から続き「インクルーシブな保育」をテーマに、研究を進めています。インクルーシブな保育は、多様な子どもたちを園として受け入れ、当事者として障がいのある子どもと、他の子どもとの関係を深め、どの子どもに対しても楽しい園生活を送れるようにすることが大切です。保育に入れない子どもがいた場合、枠に入れるように支援するのではなく、保育の枠を広げ、どの子どもでも参加できるようにするには、どのような保育、活動、環境があればよいのか、みんなで考えていきます。毎回、研修に参加されている先生の保育の中から、事例を持ち寄り話し合いを行っています。事例について、先生のどのようなかわりが素敵だったのか、共感できる場所はどこか、子どもが変化していった要因は何なのか等を出し合います。最後に、話し合いを通して分かったことを言葉としてまとめることにより、明日からの保育の参考としてきました。教研大会では、事例を通して、みなさまとその子らしさを大切にしたい保育を見つけていきたいと思ひます。

持ち物：筆記用具

第4分科会 神奈川支部

開催方法：対面（かながわ労働プラザ3F多目的ホール（B））130名

講師

木戸 啓絵 先生（東海大学児童教育学部児童教育学科 専任講師）

テーマ

幼児教育におけるSDGsの保育実践

俯瞰図番号：E4

神奈川支部では、令和4年度より「SDGs」をテーマに学びを深め、幼児教育における意義と実践を探求してきました。本研究では、自然環境を活用した保育や廃材を使った創造的な活動を通じ、子どもたちに持続可能性の大切さを伝える取り組みを行いました。研究会では他園の実践を通して学び合い、参加者それぞれが実際の保育の中で挑戦を重ねてきました。

発表当日は、これまでの実践報告や保育者の気づき、子どもたちの成長の姿を共有し、講師からの総評や参加者同士のディスカッションを通じて、今後の実践に繋がる具体的なヒントを得る機会としたいと考えています。SDGsを保育に取り入れる工夫やアイデアを一緒に考えられる場として、ぜひ多くの皆さまにご参加いただければ幸いです。

持ち物：なし

第5分科会 保土ヶ谷支部

開催方法：対面（かながわ労働プラザ3F多目的ホール（A））126名

※講師のみZoom

講師

二木 秀幸 先生（静岡福祉大学子ども学部子ども学科学科長 教授）

テーマ

身近なもので表現あそび

俯瞰図番号：B3

毎年多くの園で劇あそびや合奏、合唱などの発表会が行われ、幼稚園生活の中で様々な表現あそびに取り組む機会があると思ひます。しかし「表現あそび」というと、どうやって取り組んだらいいのかわからない、うまくいかない…と、苦手意識を持つ保育者が多いのではないのでしょうか。でも本来「表現あそび」は子どもたちの身近にあり、楽しい活動のひとつになって欲しいものです。そこで、表現あそびが保育者自身にとってもっと気軽なものになり、楽しいと感じられるよう、保土ヶ谷支部では実践を通して身近なものを使った表現あそびの研究を行ってきました。

研究大会当日は、各園で行った表現あそびの実践報告を行いながら、実際に会場の皆さんにも表現あそびの実践を観て頂く予定です。発表を通して、参加される皆さんが、表現あそびは気軽に遊べるものである、子どもたちと楽しんで取り組めばいいものなのだと思ひ、明日の保育に活かしてみたいと思ひます。

持ち物：なし

2024年度横浜市幼稚園教育研究大会分科会

第6分科会 金沢支部

開催方法：対面（関東学院大学 金沢八景キャンパス E1-502教室 200名

講師

児玉 ひろ美 先生（JPIC読書アドバイザー）

宮里 暁美 先生（お茶の水女子大学アカデミック・プロダクション 特任教授）

（宮里先生は同日開催の第1分科会に講師として出席のため、こちらでは事前にいただいている映像によるコメントとなります。）

テーマ

子どもと絵本 ～豊かな言葉が育つ保育を目指して～

子どものつづやきに耳をすましてみよう*子どもの心を豊かに育む園環境を見直そう 俯瞰図番号：E2

あなたの好きな絵本は何ですか？

部屋の片隅でお気に入りの絵本を夢中になって読みふけている子どもの姿。保育者の絵本の読み聞かせを聞いている時のキラキラと輝く子どもの瞳。絵本は子ども達を未知の世界へ連れて行ってくれます。

今年度、金沢支部では、昨年度の紙芝居に続いて絵本を取り上げました。紙芝居は読み手と聞き手がいて成立しますが、絵本は読み聞かせる事もできますし、子供自身が一人読みする事もできます。絵本から広がる未体験の世界や豊かな言葉の楽しさ、また、絵本に親しむ環境づくりなどを今年一年研究してきました。前半は、絵本を介してのエピソードや子どものそばに絵本がある環境の在り方について、研究してきた内容をお伝えし、後半は、JPIC読書アドバイザーの児玉先生から「子どもと絵本が出会うとき」というテーマでのお話をいただきます。子どもが読みたくなる素敵な絵本の紹介も楽しみです。皆さんぜひご参加ください。

持ち物：なし

第7分科会 青葉支部

開催方法：対面（TKPガーデンシティPREMIUM横浜西口）126名

講師

孫 ちょんす 先生（生涯学習開発財団認定マスター（株）リール代表）

テーマ

それぞれの園における、配慮や支援が必要な園児に対する対応モデルを構築する

俯瞰図番号：D3

皆さんの園では、このようなことが起きていませんか？

療育等へは通っていないが配慮が必要であったり、必要だと思う子の保護者対応が上手くいかない、また、具体的な配慮や支援の方法が分からない、支援が必要なお子さんに対して、園としてどのように関わりその子の成長を育んでくのか？

属人的な対応（特定の人に依存する、あるいは個性に左右されるといった味を持つ言葉で、特定の個人やその人物性に重きを置いた状況や事情を指す）ではなく体系的に対応していけるよう研究を進めました。

これまでのかかわりの中での困りごと・問題、研究を通して変えたことや園として取り組んだことを、事例発表する中で一緒に考え合いたいと思います。

持ち物：筆記用具・メモ帳

第8分科会 栄支部

開催方法：対面（旧庄戸中学校 体育館）150名

講師

大野 聡美 先生（小田原短期大学 ピアノ特別講師）

テーマ

幼児教育における、子どもの発達に配慮した音楽遊び
～手作り楽器や自然素材を使った音遊び、幼児音楽の実践～

俯瞰図番号：B3

日々、目の前の保育に真摯に取り組んでいるなかで、なかなか実践的な研修の機会が取れない状況もあるのではないのでしょうか。今回の研修では、リトミックやインプロゲームを用いて、より実践的な音楽遊びをしてきました。「やらされるのではなく、やりたい音楽遊び」を合言葉に「幼児教育における子どもの発達に配慮した音楽遊びの実践研究」をテーマに研修を重ねてきました。

研修での学びを日々の保育に取り入れ、実践してきました。内容については、他園の同学年でグループを作り、保育の振り返りを話し合い、共有しながら学び合ってきました。今回の支部発表では、各園の取り組みの発表と共に、リトミックの体験もしていただきたいと思います。

持ち物：上履き・動きやすい服装

2024年度横浜市幼稚園教育研究大会分科会

第9分科会 泉支部

開催方法：オンライン（Zoom） 500名

講師 及川 智博 先生（文教大学教育学部発達教育課程 専任講師）

テーマ クラスの気になる子について
～クラスに入れない気になる子、先生から見てワクワクが止まらない気になる子～

俯瞰図番号：B2

毎日多くの子どもと関わる中で、先生方にとってどうしても気になるお子さんがクラスや園にいらっやいませんか？気持ちの切り替えが難しい様子の気になる子？遊びの発想がユニークで、ずっと見ていたい気になる子？「気になる子」というと、配慮を必要とするお子さんをイメージしがちですが、保育者をワクワクさせてくれる気になる子もいると思います。泉支部では様々な「気になる子」のエピソードを持ち寄り、なぜその子が気になるのかを発表、共感、考察しあう事で、その子への理解を深めてまいりました。

今回の発表ではお子さんの事例と共に、講師の及川先生からお話を頂きながら、皆さんと一緒に学んでいきたいと思ひます。～皆さんにとっての「気になる子」はどんなお子さんですか？～

持ち物：なし

対面開催の会場

かながわようちえん会館	横浜市神奈川区大野町1-25 横浜ポートサイドプレイス アネックス5F
技能文化会館	横浜市中区万代町2丁目4番地7
神奈川県立かながわ労働プラザ	横浜市中区寿町1丁目4番地
関東学院大学 金沢八景キャンパス	横浜市金沢区六浦東1-50-1
旧庄戸中学校 体育館	横浜市栄区庄戸3-1-1

※詳細な地図は2次案内でお知らせいたします。

【問い合わせ】 公益社団法人横浜市幼稚園協会
〒221-0055 横浜市神奈川区大野町1-25
横浜ポ ートサイト プレイスアネックス5F
TEL:045 (534) 8708 FAX:045 (453) 1120
info@kids-yokohama.or.jp